

[資料] 埼玉県春日部市に残る 1923 年関東地震に関する石碑

栄東中学・高等学校* 荒井 賢一・小林 優介・竹原 輝・高木 駿・山浦 照良・安倍 聡志・北廣 創史

The memorial stones of the 1923 Kanto Earthquake in Kasukabe City, Saitama Prefecture

Ken'ichi ARAI, Yusuke KOBAYASHI, Aki TAKEHARA, Shun TAKAGI, Tera YAMAURA, Satoshi ABE and Soushi KITAHIRO

Sakae Higashi Junior and Senior High School, 2-77, Suna-cho, Minuma-ku, Saitama City, Saitama, 337-0054, Japan

We surveyed the memorial stones of the 1923 Kanto Earthquake in Kasukabe City, Saitama Prefecture. As a result, eleven memorial stones written about the earthquake were found in the shrines, temples and the elementary school. Nine memorial stones are built in the old Takesato Village, Kasukabe Town, Koumatsu Village, and in the old Toyoharu Village those are estimated to be seismic intensity an upper 6.

Keywords: Kasukabe City, 1923 Kanto Earthquake, Memorial Stone, Old Kasukabe Town.

§ 1. はじめに

1923(大正 12)年 9 月 1 日に発生した関東地震は、埼玉県内には建物の全壊 9268 棟の被害をもたらした。県内で 316 人が犠牲となった(宇佐美 2011)。例えば、埼玉県(1989)によると、特に県南部から東部にかけて大きな被害を受けたことが記述されている。石黒・他(2014)および石黒・他(2015)は、さいたま市内に残る関東地震に関する石碑を調査し、関東地震に関する可能性を有するものを含めて、26 基を紹介している。さいたま市内では、低地に位置する旧浦和市の南部や旧岩槻市で、戸建ての建物の全壊が比較的多かった。この地震によって埼玉県内で最も被害が大きかったのは、川口市(旧川口町)・春日部市(旧粕壁町)・幸手市(旧幸手町)で、三大被災地ともよばれている(春日部市教育委員会 1995)。

本稿では、春日部市に残る関東地震に関する石碑を紹介する。本研究は、市内に残る関東地震に関する石碑をもれなく調査する目的で着手した。市史(春日部市史編さん室 1991)、石造物の調査報告、春日部市内の寺院や神社の歴史が記された文献を基に、現地を訪れて石碑の調査をおこなった。

一方、春日部市には、当時の粕壁尋常小学校の児童たちが体験した震災を作文にした『大震災記念児童文集』と、旧粕壁町内の被害の様子を写した『大正 12 年粕壁町震災写真帳』が残されている。いずれも、春日部市郷土資料館に収蔵されており、現物を調査(接写)させて頂くことができた。これらの閲覧調査の結果については、荒井・他(2017)に紹介する。

§ 2. 春日部市の変遷と関東地震による被害の概要

春日部市は埼玉県南東部に位置し、東は千葉県野田市と、西はさいたま市(岩槻区)と隣接する。春日

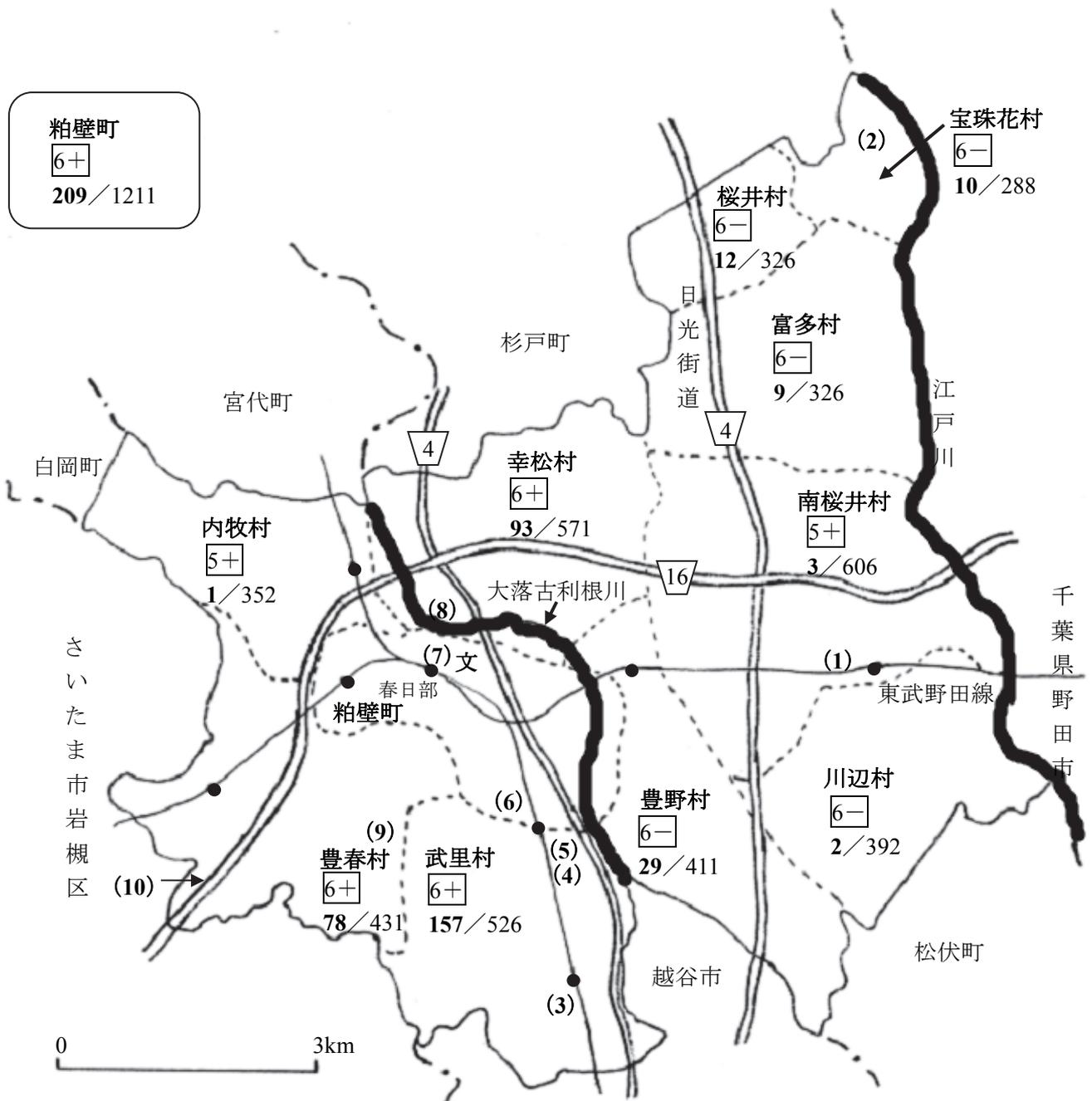
部市郷土資料館(2005)によると、関東地震が発生した 1923 年には、図 1 に示すような 11 の町村に区分されていた。1889(明治 22)年に郡域(粕壁町・内牧村・豊春村・武里村は南埼玉郡、他の 7 村は北葛飾郡)に区分された。震災後、1944(昭和 19)年に粕壁町と内牧村が合併して春日部町に、1954(昭和 29)年に春日部町・豊春村・武里村・幸松村・豊野村が合併して春日部市になった。一方、1954(昭和 29)年に宝珠花村・富多村・南桜井村・川辺村が合併して庄和村に、桜井村は 1955(昭和 30)年・1957(昭和 32)年にそれぞれ和泉村・杉戸町へと合併された。前述の杉戸町は 1960(昭和 35)年に庄和村へと合併され、1964(昭和 39)年に庄和村は庄和町に改名された。そして、2005(平成 17)年に春日部市と庄和町が合併し、現在の春日部市が誕生した。

1923 年関東地震による旧町村毎の震度(武村・諸井 2002)と被害状況(諸井・武村 2002)を、図 1 の地図中に、凡例にしたがって表示する。震度表示の 6+・6-・5+ は、それぞれ現在の気象庁震度階級の 6 強・6 弱・5 強を意味する。埼玉県内の三大被災地の 1 つと言われた粕壁町の南に隣接する旧武里村も、被害が極めて大きく、住家の全潰率は約 30%に達した。死者数は旧粕壁町で最も多く 12 人、旧豊春村で 9 人、旧武里村で 6 人、現在の春日部市に対応する旧 11 町村で計 35 人であった(諸井・武村 2004)。

春日部市防災会議(2007)によると、旧豊春村や旧内牧村の西部には大宮台地の一部が、旧宝珠花村や旧南桜井村の東部には下総台地の一部が分布している。2 つの台地に挟まれた広域が沖積低地である。また、大落古利根川・江戸川等の複数の河川が流れており、全域的に軟弱地盤の地形となっているので、市内の広域で震度 6 強または 6 弱の揺れになったと考えられる。

* 〒337-0054 埼玉県さいたま市見沼区砂町 2-77

電子メール : rikaken_sh @ yahoo.co.jp



【凡例】

(1)～(10)： §3 で記述をする寺社と小学校の位置

文： 粕壁小学校の位置
(春日部市郷土資料館は、粕壁小学校に隣接)

破線： 旧町村の境界

●： 東武鉄道の駅

▽： 国道(4号線および16号線)

旧町村名
震度
全潰数/戸数

図1. 春日部市の旧町村, 1923年関東地震による震度と被害および本稿で記述をする寺社と小学校の位置
Fig.1 Old town or village in Kasukabe City, intensity scale and damage by the 1923 Kanto Earthquake, and the location of the shrines, temples and of the elementary school.

§3. 調査結果

本節では、春日部市内の寺社と小学校を訪れて石碑を調査した結果を記述する。1923年関東地震による春日部市内の被害状況や復興に向けての人々の動きを、先人からのメッセージとして後世へ伝えたいという思いで取り組んだ。石碑の碑文は、可能な限りそのままの字体で表現し、改行される箇所には「/」を挿入する。碑文の中で、旧字体のためにワープロで出力できない場合には新字体で表記する。調査は、2015(平成27)年6月～2017(平成29)年3月におこなった。

(1) 蓮花院(旧南桜井村)

【所在地:春日部市大倉 53】

蓮花院は、東武野田線の南桜井駅が最寄り駅で、線路沿いに建てられている。庄和町教育委員会(1988)によると、寺の創建の年代は不詳であるが、本堂前方にある棕の木が樹齢400年と称されており、かなり古くからあったと推測される。また、本堂の建立は、棟札から1711(宝永8)年と推定されている。

山門を入ると、本堂に向かって左側に、関東地震による当院の被害について記された石碑がある。この石碑は、埼玉県庄和町教育委員会(2004)に碑文が記載されているため、そのコピーを持参して、現地で確認をした(誤字を修正)。正面の上段に、次のような碑文が記されている。

(正面の上段)碑文

本堂・大修繕之記/大正十二年九月一日関東大震
/災ニ因リ本堂大破ス昭和五年/四月末修繕著手
六月五日竣功/工費四百九十圓三十六錢永沼/
所有地積立金ヲ以テ之ニ充ツ/昭和五年八月十六
日建

関東大震災によって蓮花院の本堂は大破してしまい、1930(昭和5)年4月に再建に着手し、6月5日竣工に至った。この工費として、永沼(現春日部市永沼)に所有していた土地の積立金490円36銭を充当したことを読み取る。寺院の方に(言い伝えとして)当時のお話を伺ったところ、周囲の家々はそんなに被害が大きくなかったそうである。

石碑の正面の下段には、住職1人・檀徒總代3人・檀徒總代工事委員2人の名前が記されている。続けて、上記の永沼の所有地に関して、次のように碑文が記されている。

(正面の下段)碑文

因ニ記ス明治年間當院無/住職時ノ土地収益ヲ
以テ/官林一反一畝二十一步永沼ノ田畑五反
十一歩ヲ買/取り後ノ収入ヲ以テ修/繕費ニ
充ツル計ヲ確立ス/當事者染谷保徳併書/粕壁
町石盛刻



図2. 蓮花院に建つ石碑

Fig. 2 The memorial stone built in the Rengein temple.

(2) 大王寺別院(不動堂)(旧宝珠花村)

【所在地:春日部市西親野井 462】

この寺院は、春日部駅より朝日バスに乘車して、大風会館入口が最寄りの停留所であり、春日部市の北東部(千葉県との県境近く)に位置する。大王寺(所在地:春日部市西宝珠花88)の住職の方によると、大王寺別院(不動堂)は、震災が発生した当時は、別の寺院(西親野井観音寺)であった。1955(昭和30)年に、西宝珠花寶蔵寺(現在の大王寺の位置)との合寺によって、大王寺と命名された。

別院の墓地内に、関東大震災に関する石碑が建てられている。春日部市教育委員会(2010)に碑文が記載されていたため、そのコピーを持参して、現地で確認をした。石碑の正面に「無縁仏」と記されている(その上に、梵字と思われる一文字が記されている)。また、裏面には以下のような碑文が記されている。

(裏面) 碑文

大正十二年関東大震災／第十三回忌記念建之／
昭和十年九月観音寺墓地 関係者一同

同じく住職の方に伺ったお話によると、当時の檀家で、その後に墓を引き継ぐ人が途絶えてしまった家の方々を集めたとのことである。同じ墓地内に、関東大震災によって亡くなられた旨が記述されている個人の墓も建っている。



図 3. 大王寺別院（不動堂）に建つ石碑
Fig.3 The memorial stone built in the Fudou-dou of the Daiouji temple.

(3) 大畑香取神社(旧武里村)

【所在地：春日部市大畑 230】

大畑(おおはた)香取神社は、東武スカイツリー線の武里駅(西口)のすぐ南側の線路沿いに位置する。春日部市教育委員会(2002)によると、この付近は古くはおおばたけと呼ばれて、畑場として村が開かれ、当社は大畑の村の鎮守として祀られてきた。当社の明細帳には、由緒として「大正十二年九月一日大地震ニ依リ本殿半潰トナル」と記されている。同文献の境内に存在する石碑についての記述の中に、「(裏面)大震災修理記念碑文」とある。

現地を訪れたところ、社殿に向かって右側のフェンス沿い(フェンスの反対側は東武鉄道の線路)に、該当する石碑を見つけることができた。図4の写真から分かるように、上下に2つに折れていて、上側の半分が石碑の正面に向かって、下側の半分の右側に埋まっている。

正面には、「日露戦没郷軍ノ道及凱旋之地／陸軍少将正五位勲三等功口承撰書」と記されている。

□の部分は、2つに折れた上側半分の下部にあたり、地中に埋まっていて読み取れなかった。また、碑文1行目の「ノ」は下側半分の下部の土を少し除けて、辛うじて確認できた。前述の春日部市教育委員会(2002)には、「(正面)□□追及凱旋之地」と下側半分だけの碑文が記述されており、下側半分の最も上の文字を「追」と誤読している。

石碑の裏面のう上段には、「大正四年十一月□里村」と記されている。□の文字は、2つに折れた上側半分の下部にあたり、読み取れなかったが、武里村の「武」が記されていると推測できる。

裏面の下段に、地震に関して記されている。正面と比べて石碑の風化が激しく、読み取りが不可能な文字が多かった。以下に、碑文を記述する。○は一文字分が読み取れなかったことを、□は続けて二文字以上が読み取れなかったことを意味する。

(裏面のう下段) 碑文

大正十二年九月一日大震災ニヨリ／村内倒潰住宅百六十余其他／被害額多シ□／○折□仍チ之ヲ修理シ記念トス

地震によって、旧武里村では160軒余りの住家が倒壊したことが記されている。これは、図1中に記述した諸井・武村(2002)による旧武里村の全潰数157とおよそ一致する。裏面のう上段に記されている年月より、この石碑は1923年関東地震が発生する前から建てられていたことが分かる。



図 4. 大畑香取神社に建つ石碑
Fig.4 The memorial stone built in the Ohata Katori Jinjya shrine.

(4) 備後香取神社(旧武里村)

【所在地：春日部市備後東 1-27-17】

備後香取神社は、東武スカイツリー線の一ノ割駅の南東側に位置する。須賀(1994)によると、由緒・沿革として、鎮座年月日は不詳であるが、(口碑として)文明の頃(1469年～1486年)の創立という言い伝えもあることが記述されている。また、『新編武蔵風土記稿』に「香取社村の鎮守なり、真福寺持ち」と記されていることが記述されている。

埼玉県神社庁(1998)に、氏子の家に大きな被害を与えただけではなく、神社の社殿も倒壊したことが記されている。また、氏子たちの努力がかなって震災から5年後の1928(昭和3)年に竣工を迎え、鳥居と復興記念碑を建てて後世への記念としたことが記されていることから、現地を訪れた。神社の敷地に入って参道の右側(門を入ってすぐの位置)に、鳥居と、関東大震災に関する石碑が建てられている。社殿に向かって左側の鳥居の柱(社殿に面した側)には、「昭和三年二月吉日」と記されている。

石碑の正面の上部には、「復興記念碑」と記され、そのすぐ下に、5人の氏名が大きく記されている(右から4人目と5人目の右上肩には、それぞれ「東京」と付いている)。その下には、4段に渡って合計67人の氏名が記されている(1段目の右から16人目の右上肩には「西」と、2段目の右から4人目の右上肩には「中」と付いている)。また、4段目の左端に、「寄附金額併年齢順」と記されている。さらにその下の最下段には、氏子総代発起者4人と工事委員8人の名前が記されている。

石碑の裏面には、次のように記されている。

(裏面の upper 段) 碑文

大正十二年九月一日大震／災ニ際シ本社建設物倒潰シ／茲ニ森泉恭発起者トナリ昭／和三年二月廿六日竣工ス

(裏面の lower 段) 碑文

古橋勘次郎世話人／久保谷吉次郎／粕壁町／石工山田浅次郎／八十一翁内野清太郎拜書／社掌押田榮吉



図 5. 備後香取神社に建つ石碑

Fig.5 The memorial stone built in the Biko Katori Jinjya shrine.

(5) 真福寺(旧武里村)

【所在地：春日部市備後東 1-27-13】

真福寺は、備後香取神社に向かって右隣に位置する。備後香取神社の石碑調査の際に立ち寄ったところ、山門の外側(本殿に向かって右側)に、関東大震災に関して記された石碑を見つけた。この石碑の碑銘は「真福寺縁起」で、寺院の歴史が詳しく記されている。その中に、関東大震災に関することが以下のように記されている。

(正面) 碑文 (一部抜粋)

秀譽上人代明治十四年四月本堂、庫裡竣工、同十九年六月九日火災にあい堂宇悉く灰燼に帰す。翌二十年春壇家及び有志の浄財を募り再建する。大正十二年九月一日関東大震災により堂宇すべてが倒壊、その後仮本堂を建て昭和十四年に至って本堂を新築する。

須賀(1996)に記述されている『寺の伝記』によると、天正18年に岩槻城が攻められ落城した際に家臣等がこの地に逃げてきて、森を切り開いて農業を始めて土着し、一寺・一社を建立した。一寺が浄土宗西川山廣大院真福寺、一社が前述の備後香

取神社である。西川山の由来は、昔の利根川や古利根川の流路の名残として、この付近に西川とよばれる小川が流れており、関東地震の際に川跡が陥没したことを古老から聞かされていたためと推定されている。



図 6. 真福寺に建つ石碑

Fig.6 The memorial stone built in the Shinpukuji temple.

(6) 元新宿八幡神社(旧粕壁町)

【所在地：春日部市南 3-18-17】

元新宿八幡神社は、東武スカイツリー線の一ノ割駅の北西側に位置する。春日部市教育委員会(2003)によると、当社は旧粕壁宿に祀られている三社の八幡神社の1つである。明細帳への由緒の記述として「大正十五年九月一日ノ大地震依り本殿拝殿全壊ナル」と記されている(この文献には、「大正十五年」と記されているが、「大正十二年」を書き損じたものと考えられる)。

同文献の境内に存在する石碑についての記述の中に、1923 年関東地震に関する碑文が載っていたため、そのコピーを持参して、現地で確認をした(誤字を修正)。石碑の正面の上段に、次のような碑文が記されている。

(正面の上段) 碑文

維時大正十二年九月一日正午前ノ代未聞ノ大震
 関東ヲ襲ヒ東京横ノ濱等崩潰軒ヲ竝ヘ火災四方
 二起ノリ死十萬ヲ算ヘ殆ト焼土ト化シノ凄慘言語
 ニ絶ス當地亦鎮守八幡ノ社ト組内四十四戸ノ大
 半倒潰シ死一傷三耕地ノ亀裂ト陥没ノ状ノ筆紙ニ
 盡セス此秋ニ當リ氏子ハ奮起力ヲ復興ニ注キ稍其
 緒ヲ見ノル翌十三年七月八幡社ノ造営ヲ興シ

營費五千ヲ以テ昭和二年六ノ月竣成セリ是レ敬
 神ノ念ト郷土ノ愛ノ迸シル所茲ニ紀念ノ碑ヲ建
 テ之ヲ傳フ 粕壁瀧可笑撰書ノ昭和二年七月十
 五日 元新宿

大正 12 年 9 月 1 日の正午に、未曾有の大地震が関東地方を襲い、東京や横浜等で、建物の倒壊や火災が方々で発生した。犠牲者は 10 万人にのぼり、火災により多くが焼けてしまい、言葉で言い表せないほどの悲惨な状態であった。当地も甚大な被害を受け、この八幡神社や組内の 44 戸の大半が倒壊して、死者 1 人・負傷者 3 人を出した。また、耕地では亀裂や陥没が生じ、被害の状況は書き表せないほどひどかった。氏子は、同年の秋のうちに復興に向けて立ち上がり、翌大正 13 年 7 月に八幡神社の造営に着工し、昭和 2 年 6 月に完成した。感謝と郷土愛の気持ちをもって、同年 7 月に、記念の石碑を建てた。

正面の下段には、「世話人」6 人と「當番」4 人、棟梁 1 人の氏名が記されている。さらにその下に、人名が複数(石碑の風化により、正確な人数の判別は不可能)、最後に「石工」1 人が記されている。石碑の正面に記されている神社の造営に携わった(資金を投じた)方々の氏名であると考えられる。



図 7. 元新宿八幡神社に建つ石碑

Fig.7 The memorial stone built in the Moto-Shinjyuku Hachiman Jinjya shrine.

図 7 の石碑の近く(左側)には、前述の文献には載っていないが、碑銘「元新宿八幡神社 由緒略誌」の石碑が建てられている。【由緒・沿革】の中に、関東地震に関して次のように記されている。

(正面) 碑文(一部抜粋)

爾後新宿(江戸時代に粕壁宿本新宿と改む)の鎮／守として鎮座ありしが大正十二年(1923)九／月、関東大震災により、本殿・拝殿共に全壊せり。／この時、本新宿の民家も被害が甚大で、神社の修復／について住民協議し、神璽を一時大砂の村社八幡神／社にお預けして、民家の復興後神社を再建してお迎／えすることに決した。／ところが、その後本新宿地内に禍が再三あり。住／民は、これを神様の怒りと恐れ、協議の結果、民／家の復興より先ずは神社の再建が必要と感じ工事に／着手し、大正十五年(1926)現在の社殿を建／立したと伝えられている。

以上、元新宿八幡神社の境内には、関東地震に関して記された石碑を 2 基確認することができた。

(7) 春日部市立粕壁小学校

【春日部市粕壁東 3-2-19】

春日部市立粕壁小学校(1972)によると、同校は、明治 5(1872)年に粕壁宿最勝院に設置された粕壁学校として開校した。明治 35(1902)年に町立粕壁尋常小学校に高等科を併置し、明治 44(1911)年には町立実科高等女学校を併設した。粕壁小学校の沿革として、「大正十二年九月一日大震災にて増築の二階建の倒壊その他の大破等被害甚し 震災後、雨天体操場を実科高等女学校の仮教室に充てる」と記述されている。同沿革によると、地震によって甚大な被害を受けた校舎は、大正 9(1920)年に増築された 2 階建 8 教室(木造瓦葺)であった。

正門を入って左側に、碑銘「春日部市立粕壁小学校 開校百年の碑」の石碑が建てられている。その裏面に、沿革の概略が記されており、「大正十二年九月一日 関東大震災のため、本校舎が倒壊する。」と刻まれている。



図 8. 春日部市立粕壁小学校に建つ石碑

Fig.8 The memorial stone built in the Kasukabe Elementary School.

(8) 仲蔵院(旧幸松村)

【所在地：春日部市八丁目 36】

山門を入ってすぐ左に、6 基の碑が並んで建っており、左端から 3 基目の石碑に関東大震災に関することが記されている。正面には以下のような碑文が記されている(碑文中の空白は、以下の記述でも空白のままとする)。

(正面) 碑文

大正十二年九月一日関東ニ激震アリ 吾カ／郷亦其ノ災ニ罹リ完屋指ヲ屈スルノ惨ヲ呈／セリ 當院亦其ノ累ヲ蒙ル甚大ナリキ 茲／ニ於テ檀信胥謀リテ其ノ營繕ノ途ヲ講ス 即チ有志ヲ勸化シテ淨財ヲ募リ今ヤ本堂ノ／修繕庫裡ノ改築祠堂ノ創建等全クエヲ竣へ／舊觀ニ復スルヲ得タリ 之レ偏ニ佛天ノ加／護ニヨルト雖モ亦檀信各位ノ護法崇祖ノ道／念ニ篤キ所以ノ賜ナラスンハアラス 聊カ／之ヲ誌シテ記念トナス 昭和六年五月 仲蔵院住職 平原寛空

関東大震災はこれまでも中でも屈指の被害の大きさで、仲蔵院も甚大な被害を受けたことを読み取れる。また、寄付金によって祠堂の修理をし、元の状態に戻せたことが記されている。

裏面には、上部に「寄附者連名」と記されており、3 段にわたって 58 人の氏名と寄付金額(合計 4259 円)が記されている。4 段目には、「特別寄附者」として 9 人の氏名と寄付金額(合計 248 円)、「當院檀徒總代」6 人と「慶讃會發起人」

7人の氏名が記されている。



図9. 仲蔵院に建つ石碑

Fig.9 The memorial stone built in the Chuzouin temple.

(9)大沼香取神社(旧豊春村)

【所在地：春日部市大沼 7-70】

埼玉県神社庁（1998）に、関東大震災によって幣殿・拝殿が全壊したものの、氏子の信仰が厚く、大正15年4月に再建が果たされたことが記されている。現地を訪れたところ、社殿のすぐ左側に、関東大震災に関して記された石碑が建てられており、正面の上段には以下のような碑文が記されている。

（正面の上段）碑文

維時大正十二年九月／一日正午関東ヲ襲ヒ來／ル大震災ニ罹リ大字谷原新／田総戸数八六戸ノ内住家／全潰廿八半潰六大破廿／倉庫及物置全潰廿六半／潰七大破廿七神社全潰／一寺院全潰二其際當香／取社拝殿全潰ニ付氏／子ハ奮起力ヲ復興ニ注／キ改築シ茲ニ紀念碑ノヲ建テ之ヲ傳フ／大正十四年九月上棟

関東大震災によって、大字谷原新田では、86戸の住家のうち全潰が28戸、半壊が6戸、大破が20戸であった。物置や倉庫では、全潰が26戸、半潰が7戸、大破が27戸に及んだ。また、

神社が1戸、寺院が2戸、それぞれ全潰した。当香取神社の拝殿も全潰してしまったが、氏子が復興に力を注ぎ改築できたので、それを記念して石碑を建てた。

正面の下段には、「改築並玉垣修繕費寄附芳名」として、まず2段にわたって「當所」の寄付者29人の氏名と寄付金額（合計655円）が記されている。3段目には、14名の氏名と寄付金額（合計75円）が記されており、それぞれの氏名の上部に「備後」・「粕壁町大工」・「大門」・「田宮村」・「石工」・「鷲」・「銚子口」・「粕壁町」（2人）・「岩槻町」（2人）・「船渡」・「梅田」・「一ノ割」と付されている。4段目に「世話人」6人の氏名と「社掌」の氏名が、石碑正面の左端には「昭和三年四月十五日建設」と記されている。

石碑の裏面には、「浄法庵改築寄附芳名」として、2段にわたって寄付者30人の氏名と寄付金額（合計587円）が記されている。その下には、「世話人」6人の氏名が、石碑裏面の左端には「大正十五年十一月十五日」と記されている。



図10. 大沼香取神社に建つ石碑

Fig.10 The memorial stone built in the Oonuma Katori Jinjya shrine.

(10)増戸神明神社(旧豊春村)

【所在地：春日部市増戸 464】

増戸神明神社は、東武野田線の豊春駅またはその隣の東岩槻駅(さいたま市岩槻区)が最寄りであ

る。春日部市の南西部(さいたま市岩槻区との市境の近く)に位置する。春日部市教育委員会(2003)によると、境内には市内でも古い天和 2(1682)年の庚申塔があることから、当社はこの時期には存在していたと考えられている。

同文献の境内に存在する石碑についての記述の中に、「震災復興記念由緒碑文」とあるため、現地を訪れたところ、正面に「記念碑」と碑銘が記された石碑が建てられていた。その石碑の正面には、次のような碑文が記されている。

(正面)碑文

神明宮ハ増戸の村社なり大正十二年の大震に方里此地壓死三人全潰十ノ六戸半潰五戸なり祠殿も亦損壊を蒙里華表傾けり其激甚なりしや知るノ遍きな里全年朝廷大禮を擧げらるしの佳辰に會し紀念の為に之か修理ノを衆胥諮るに崇敬の心忠良の意凝りて翕然議協ひ攸然其資を供するにノ至る乃ち拝所を修め銅を以て其屋瓦を造里華表ハ石を以て木に更へ之ノを建つ又参道にハ新に花崗石を鋪き工事完く成りて祝す茲に其由を勒ノし後面に於て鞅掌せる委員及ひ供資の衆名を刻す冀くハ貞民永存しノ之を傳へて不朽ならんノ昭和三年十一月 根岸千仞謹識ノ石工栗原竹之助鐫

碑文からは、大正 12 年の大地震によって、豊春村増戸において圧死者 3 人、建物の全壊 16 戸、半壊 5 戸の被害を生じ、神明神社の社殿も損壊が激しかったことが読み取れる。神社の修理する計画に賛同する人が多く、資金が集まって工事を進めることができ、石碑の裏面に協力者の名前を記すに至った。

上記の碑文は、所々に崩し字が使われている。また、一部の文字は当て字になっている。例えば、碑文の 2 行目の「蒙里」は、「蒙り」と解釈できる。

石碑の裏面には、「埼玉縣武蔵国南埼玉郡豊春村大字増戸神明社修理供資及委員列名」が記されている。上半分には 3 段にわたり、「供資人名」として 42 名の氏名と寄付金額(合計 713 円)が記されており、そのうち 3 人には「浄泉寺兼務住職」、「宝蔵寺住職」、「神明社々掌」と付されている。裏面の下半分には 3 段にわたり、「特志供資人名」が記されている。初めに「本

社張幕」の寄付者の氏名が町名と共に記され、続けて 22 名の氏名と寄付金額(合計 238 円)が地名と共に記され、3 段目の最後に「花崗石敷手間 岩槻町石工」1 名の氏名が記されている。その下には、当社委員が 7 名記されている。特志供資人名として記されている人名に付されている地名は、「東京神田東竜閑町」・「東京府下南千住町」・「東京深川西元町」(2 名)・「東京府下高田町水久保」・「新和村字尾ヶ崎」・「東京府下岩淵町字下村」・「東京府下池袋」・「武里村一ノ割」・「川通村字大口」・「内牧村字梅田」・「豊春村字花積」・「岩槻町字出口」・「河合村字平林寺」・「草加町長沼」・「河合村字馬込」・「川通村字新方須賀」・「新和村字末田」・「川通村字南平野」・「豊春村字新方袋」・「日勝村字太田新井」・「岩槻町」・「豊春村谷原新田」と、春日部市やさいたま市岩槻区および東京都内の広範囲から寄附が寄せられている。



図 11. 増戸神明神社に建つ石碑

Fig. 11 The memorial stone built in the Masuto Shinmei Jinjya shrine.

§ 4. おわりに

本研究では、春日部市内の寺社 9 か所と小学校 1 校にて、1923 年関東地震に関して記されている石碑を計 11 基見つけることができた。§ 3 の(3)~(10)で記述をした 9 基は、全潰率の比較的高い(震度 6 強の)旧町村に分布している。多くの石碑に、各石碑が建てられている寺社や小学校の被害状況や、その地域で生じている被害の様子、震災からの復興につい

て記されていた。特に、(6)、(8)、(9)、(10)で記述した石碑の碑文からは、復興を願った人々の強い思いが伝わってくる。今後は、関東地震による埼玉県三大被災地の1つである旧幸手町を含む幸手市についても、石碑の調査を進めたい。

謝辞

本研究は、武田科学振興財団より採択頂いた研究助成(高等学校理科教育振興奨励)により実施をした。担当編集委員の白石睦弥氏および匿名の2人の査読者から頂いた貴重なコメントは、本稿の改訂にたいへん有意義であった。

栄東中学・高等学校理科研究部の清水駿平氏・山本朗生氏・藤田健一朗氏には石碑の再確認調査を協力頂いた。滝澤怜於氏には、碑文の読み取りや解説、本稿の校正に協力を頂いた。また、同校教諭の藤井聡氏と宮崎雅芳氏には、増戸神明神社の石碑に記されている崩し字の読み取りをご指導頂いた。この研究は、著者らの所属する理科研究部の37期生が中心に、「37プロジェクト」の一環として取り組んだ。

対象地震: 1923年 関東地震

文献

- 荒井賢一・小林優介・竹原輝・高木駿・山浦照良・安倍聡志・北廣創史, 2017, 埼玉県春日部市郷土資料館に残る1923年関東地震に関する記録 ～大震災記念児童文集と大正12年粕壁町震災写真帳～, 歴史地震 第32号, 103-106.
- 石黒喬大・荒井賢一・西山享佑・安倍聡志・平原優美・増田滉己・浜橋一徳・齋藤 隆・木村円香, 2014, 埼玉県さいたま市に残る1923年関東地震に関する石碑, 歴史地震 第29号, 111-128.
- 石黒喬大・荒井賢一・小林優介・西山享佑, 2015, 埼玉県さいたま市に残る1923年関東地震に関する石碑 その2, 歴史地震 第30号, 139-148.
- 春日部市防災会議, 2007, 春日部市地域防災計画(平成19年3月改訂)
- 春日部市郷土資料館, 2005, 春日部・庄和町の歴史, 16pp.
- 春日部市教育委員会, 1995, 春日部市史 第6巻, 通史編II, 534pp.
- 春日部市教育委員会, 2002, 春日部市の神社(上巻), 156pp.
- 春日部市教育委員会, 2003, 春日部市の神社(下巻), 152pp.
- 春日部市教育委員会, 2010, 石造物II 川辺・富多・宝珠花・桜井地区の調査, 406pp.
- 春日部市史編さん室, 1991, 春日部市史, 第4巻, 近現代資料編I, 763pp.
- 春日部市立粕壁小学校, 1972, 開校百年の歩み 粕壁小学校, 32pp.
- 諸井孝文・武村雅之, 2002, 関東地震(1923年9月1日)による木造住家被害データの整理と震度分布の推定, 日本地震工学会論文集, 第2巻, 第3号, 35-71.
- 諸井孝文・武村雅之, 2004, 関東地震(1923年9月1日)による被害要因別死者数の推定, 日本地震工学会論文集, 第4巻, 第4号, 21-45.
- 埼玉県, 1989, 新編埼玉県史 通史編6 近代, 1140pp.
- 埼玉県庄和町教育委員会, 2004, 石造物I 南桜井地区の調査, 339pp.
- 埼玉県神社庁, 1998, 埼玉県の神社 北足立 児玉 南埼玉, 1492pp.
- 須賀芳郎, 1994, 春日部の神社 製本版, 54pp.
- 須賀芳郎, 1996, 春日部の寺院 製本版, 76pp.
- 庄和町教育委員会, 1988, 庄和町神社・寺院, 59pp.
- 武村雅之・諸井孝文, 2002, 地質調査所データに基づく1923年関東地震の詳細震度分布 その2 埼玉県, 日本地震工学会論文集, 第2巻, 第2号, 55-73.
- 宇佐美龍夫, 2011, 最新版 日本被害地震総覧 [416]-2001, 東京大学出版会, 605pp.